

◎市長（角光雄君） ただいまの小川議員の御質問にお答えをいたしたいと思います。

私に与えられた質問は2点でありまして、届け出によりますと、収入役、それから企画財政部長ということになっておりますので、それぞれ答弁をさせますので、よろしく願いいたしたいと思います。

私に質問されとるのは世界遺産であります。世界遺産の登録を目指し、共同提案した霊峰白山と山麓の文化的景観は継続審査となりましたが、白山信仰と生業、生活が独特の景観を形成していることから価値が高いとの評価を受けており、今後とも文化庁の指導・助言を得ながら課題の改善に取り組むとともに、暫定一覧表登載に向け、努力していく所存であります。

御質問の資産保存管理計画の推進体制についてであります。先月、3県3市による白山に係る世界遺産連絡会議が設置されたところであり、包括的な保存管理計画の策定も、今後、地域住民、関係機関との緊密な連携のもとで進めていく予定であります。

次に、世界遺産にふさわしい町づくりについてであります。文化遺産と一体をなす周辺環境については、まちなみ景観条例等関係法令との整合性を図るとともに、地域住民のコンセンサスを得ながら、その適切な保全を図ることが肝要であると考えております。

最後に、世界遺産登録に向けた市民への周知の協働についてであります。現在、3県3市での共通のPR用パンフレットを作成中でありまして、広く県民・市民に周知するものであります。

また、新年度には本市において白山文化フォーラムを計画し、市民の関心を高めると同時に、白山文化を広く発信していきたいというふうに考えております。

庁内の連携につきましても密にしながら、幅広く積極的に啓蒙活動を推進していく所存であります。

私は、この世界遺産とあわせて、勝山の方へお伺いいたしましたら、勝山市は以前から、もう市として白山信仰について相当の研究を進めておるわけです。そういう面では白山市はおくれておる、これはやむを得ない。山ろくの方は5村で小さい自治体でありますから、経費も非常にかかりますから、その面では調査研究がおくれたんだろうと思います。

今、幸い合併して、大きなこの白山市というのが誕生したわけでありまして。この際、我々が住むこのふるさと白山市、やはり埋もれた文化資産、歴史、そういうものを調査・発掘していく機会だと私は思います。そのことを市民の皆さんにも理解と、そして広く発信することによって、市民全体がいかに世界遺産というものに対する理解も深めていけるかということになるのかな、つながると、こんなふうに思っております。そういう面で鋭意これから努力していきたい、こんなふうに思っております。新しい担当室を設けたところであります。

次に、白山市の統合小中学校に併設される寄宿舎の運用、活用については、昨年3月の

白山市統合小中学校建設基本構想検討委員会の答申を受けまして、現在、白山市統合小中学校統合準備委員会を設置いたしまして、寄宿舎の有効な利活用について検討をいたしているところであります。

寄宿舎は最大 40 人が宿泊できる施設として建設し、統合小中学校を初め、白山市内全域の児童・生徒が一定期間自然の中で宿泊しながら集団で共同生活を送ることで、豊かな感性や協調性をはぐくみ、子供たちに今不足している相手を思いやる心や自立心などを培うとともに、互いに強い信頼関係を構築してほしいと私は考えております。

議員が御指摘のように、同じかまの飯を食べ、一つ屋根の下で過ごすことで、子供たち同士によりよい仲間意識を育てることができれば、いじめを初めとしたいろいろな今の事件を考えると、みんなが一緒になってはぐくむ、そういう大きな豊かな心が養われると、私はそのように感じておるわけであります。

今ほど、小松市の松東中学校の寄宿舎である睦習館は、冬季 8 週間、男子 20 名、女子 16 名が宿泊し、共同生活し、互いに学び合い、非常によい成果を上げているということは報道されておりました。私もそれを読みまして、私はそのようなことを実現できればなと思いました。

ところが、先日、北九州のある地域で学校寄宿舎のよさをNHKが放映いたしておりました。その生活を見ておまして、私もちょうどテレビのスイッチ入れたら見たわけであります。みんなが自然環境の中で、やはりすばらしい教育をやっておりました。そして、その中で、互いに協力し合いながら、炊事の当番をつくりながら、みんな一生懸命にやっておまして、私は、本当にすばらしい、こうしたことが全体にそういう意識が広がったらいいなというふうに実は思ったわけであります。

私は、実は 18 歳のときにボーイスカウトというのを石川郡内で第 1 隊としてつくりました。そして、子供たちと一緒に飯ごう炊さんをし、子供は一生懸命になって薪を拾い、自分で炊飯をやりました。そして、御飯と一緒に食べる、あるいはまた副食を当番でつくる。みんなが協力し合ってつくった、そのいわゆる共同生活というのは、私はすばらしいものだと思います。その当時の育った子供さんが、大人になり大成功した人がおります。そしてまた、私が市議会議員のときには、これは私ごとでありますけれども、大変私に対して力強い支援をしていただいたわけであります。そのことで、私が今日こうした政治生活を続けることができたんだなど、私は思っ感謝もいたしております。

やはり、今の子供に本当に共同生活をし、そしてそういう共同の中から、生活の中からお互いに助け合う、いじめのない、そういう生活ができれば、将来その子供たちはすばらしい社会へ出ても、大きな社会を背負って立つ子供さんが生まれてくるだろうと、こんなふうに思っ私も期待しております。

ただ、財政的にもありますので、これは大いに今後とも地域住民や、あるいはまた準備委員会、そしてまた地域の皆さん、あるいは議会の皆さんのいろいろな御意見を聞きながら、これの実現に向かって努力していかなければならないと、こんなふうに思っおま

す。

また、本市の広域性特徴を生かした広域通学校モデルというものの実現については、要望を踏まえ検討してまいりたいと考えておるところであります。